

【 2018アジアジュニア選手権 】

2018年7月16日～7月26日 オマーン・サラール

試合結果報告 7 月 18 日 (水)

J P N	VS	KOR(韓国)
8	前半	14
15	後半	13
23	合計	27

個人得点

名前	前半	後半	7MTC	合計
平尾 克己				
高野 颯太		4		4
末岡 拓美	1		1	2
阿部 奎太	1			1
徳田 廉之介	4	4		8
村木 幸輝				
堀田 陽大				
矢野 世人	1	3		4
櫻井 睦哉		1		1
中村 光				
朝野 翔一郎				
中村 翼		1		1
川崎 駿				
大杉 拓巳	1	1		2
Kai Klampt				
磯田 健太				
合計	8	15		23

戦評

一次リーグの最重要ゲームと位置付けた韓国戦。左ウイングから、矢野、阿部、末岡、徳田、Kai、ピボットは高野、GK堀田の先発メンバーでスローオフ。

日本は先制機の7mスローとブレイクスルーをGKに阻まれたが、相手もノーマークシュートを外すなど、立ち上がりは両チームとも硬さが見られた。先制点は3分過ぎ、DFから速攻に出たNo.27大杉、更にNo.3末岡のシュートが立て続けに決まり、ゲームは動き出す。

両チーム共にGKのファインセーブと、攻撃時のテクニカルミスにより速攻の攻防となる。8分に早々とチームタイムアウトを請求した日本は、直後に3-2としたものの、4連続失点で逆転され、3-6となった。その後もNo.7徳田のシュートなどで20分過ぎに7-9まで盛り返すものの、再びテクニカルミスや退場などで流れを引き寄せきれず、5連続失点により、8-14で前半を折り返した。

後半は、No.9村木をセンターに、右ウイングにNo.15櫻井を起用して反撃を開始した。前半同様に両チームともにボールコントロールミスが続き、ターンオーバーからの点の取り合いになった。セットオフenseで分のある日本は、村木の芸術的なパスから、No.2高野や大杉のライン際での粘りからのピボットシュートなどで3度の連続得点を挙げた。後半16分には17-20、後半24分には20-22まで迫り、相手にタイムアウトをとらせるまでの接戦に持ち込んだ。しかし、両チームともボールがスリップして保持できない状態が何回もあり、GKファインセーブの中で、確実に得点に結び付けた韓国が27-23で勝利した。結果、日本はグループ2位で二次予選に進出となった。

報告記入者 :

森實 岳史